

令和元年度地域包括支援センター課題対応取組み報告書

名称

此花区地域包括支援センター

活動テーマ	他職種で世帯支援を考える
地域ケア会議から 見えてきた課題	複合的な課題がある世帯への関わり ・家族、本人が支援の必要性を理解しづらく、支援に繋がるまでに時間がかかる ・複数の関係者が関わる場合、支援方針の共有や具体的方策を立てても支援に結びつかない 早期発見・相談の仕組みが充分でないため、重篤な状況になってからの相談に上がることが多く、関係者が対応に苦慮している。
対象	世帯支援に関わる専門職
地域特性	様々な関係者が関わっていてもアセスメントや意向の汲み取り方の違いから支援の方向性が統一できなかったり、横のつながりが希薄なため支援困難ケースとして地域ケア会議にあがってくる状況が依然継続している。
活動目標	他職種での意見交換をととして相互理解を図る
活動内容 (具体的取組み)	○事例検討会の実施 1回目：拒否が強い認知症高齢者の支援を考える ①事例から「本人の思い」を見出し、そこからの課題を考える。 また課題に対する支援内容を検討。 ②講師（社会福祉士）による講評および「意思決定支援ガイドライン」について説明 2回目：制度の狭間にある複合課題がある世帯の支援を考える ①インシデントプロセス法を用いた情報収集 ②世帯の課題抽出 ③世帯の支援方針および優先順位の検討
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1回目：本人の思いをいかに尊重していくべきかを考え、また意思決定 支援の流れについて学ぶことができた。 2回目：様々な職種からみた世帯の状況を参加者で共有でき、「世帯支援」の視点をもつことの必要性について考える機会になった。 全体として、参加対象者を広げることで訪問介護や通所事業所など幅広い職種の参加を得ることができた。各専門職のお互いの職域を理解し、情報共有の重要性や各専門職の強みを生かしながら支援法方法を検討していく過程を理解してもらうことができた。 ※各回アンケート集計参照
今後の課題	参加する事業所が固定されてきているが、高齢や障がい・地域活動それぞれの専門職の相互の職域や業務内容を理解して意見交換ができる機会となっており、参加勧奨の工夫が必要。 事例検討会を2年間継続して実施し、一定の成果も得られているが、地域ケア会議から見えてきた課題は経年的に続いているため、今後も他職種間での事例検討会を継続していく。
※以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和2年7月10日(金)
専門性等の該当	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性
今後の取組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)	取組みについては切り口を変えながらも経年的に実施しており、世帯支援の実践に反映できるように継続し、ある一定の成果がみられる。 今年度は課題対応取組みのテーマから外れるが、事例検討会実施の必要性は感じており、継続されるとのことなので、一層の専門職の拡充を図り、他職種の支援関係者での検討を期待する。